

牛久：学校周辺に見る自然

第15号 ひたち野うしく小

2012年7月5日発行

＜ 梅雨の水辺公園 ～動物のすがたを観察しました。その②. バッタの仲間＞
ひたち野うしく小3年生との水辺公園シリーズ。今回は、バッタの仲間です。



今回、一番多く見つかったのは、ショウリョウバッタの幼虫（ようちゆう）でしょう。写真のように緑色のと茶色のがいましたが、どちらもショウリョウバッタです。緑色のは緑色の草に、茶色のは枯れて茶色の草にいるようですが、どうでしょう？また、すんでいる場所の背景（はいけい）によって体色が決まるのなら、虫かごなどに入れて草を変えたら、脱皮（だっぴ）のときに体色も変わるのでしょうか？自由研究にいかがですか？

体色はぜんぜん違うけれど、どちらもショウリョウバッタ。背景の色に合わせて変わるらしい。



これも、たくさんいましたね。ヒシバッタです。大きくても1 cm程度（ていど）ですが、これで大人（おとな）です。ぴよんぴよんはねますが、トノサマバッタなどのように翅（はね）で飛ぶことはありません。

大きくても体長1 cmにしかないヒシバッタ。
はねるだけで、翅で飛ぶことはない。



そしてこちらは、トノサマバッタの幼虫。成虫のような大きな翅（はね）がありませんね。ショウリョウバッタの場合もそうですが、ここが、バッタの仲間の幼虫と成虫（せいちゆう）の大きな違い（ちがひ）です。では、翅（はね）はいつごろから、どうやって大きくなるのでしょうか？教室（きょうしつ）などで飼育（しよく）しているのを、じっくり観察（くわんさつ）してみましよう。記録（きろく）も忘れず（わすれず）にね。

最後に、ヒメギス。体の黒いキリギリスの仲間（はね）が発達（はったつ）してないのでまだ幼虫（ようちゆう）ですが、右は大人（おとな）に近い（ちか）ですね。今回（こんかい）見られた（みられた）中で、トノサマバッタとショウリョウバッタはイネ科（いねか）植物（しょくぶつ）の葉（は）を食べ、ヒシバッタは広（ひろ）くいろいろな葉（は）、ヒメギスは雑食（ざっしょくせい）で葉（は）だけでなく他の昆虫（こんちゆう）

虫かごのトノサマバッタ幼虫。翅が発達してないね。も食べます。飼育するときは、そうした点も考えましようね。【理科支援員：宮内】

雑食性で黒いキリギリスの仲間、ヒメギスの幼虫。

